
短編 8

三木拓矢

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短編8

【Nコード】

N3733P

【作者名】

三木拓矢

【あらすじ】

その子は出来たばかりであろう友達と楽しそうに笑顔で喋っていた。
可憐だ。
そう思った。

(前書き)

えー、これはsupercellのローローとくみ曲のイメージ小説です。

4月の14日。

入学式からおおよそ1週間くらいたった頃だっただろうか。

1人の、女の子に出会った。

その子は出来たばかりであろう友達と楽しそうに笑顔で喋っていた。

可憐だ。

そう、思った。

それは冗談だとか大げさとかじゃなくてその子のことを好きになった。

ひとめ見て、恋に落ちた。

だって、彼女の姿は自分が思い描いていた漫画に登場してくるヒロインのようだったから。

ホンキのホンキで好きになった。

話しかけてみたい。でも駄目だ。

僕のこんな容姿じゃどうせ嫌われてしまう。

「ほら、見てよあの人」

「うわーなんかネクラっぽい」

「ああいうの絶対オタク系だよねー」

「はははっ、確かにー」

「言えてる言えてる」

ああ、ほらやっぱり中学の頃と同じだ。
周りからの自分を笑う声が聞こえてくる。

……別にいいんだ。

もうそんなの慣れっこだし。

さっさと忘れてしまおう。

……だけど、本当は胸が張り裂けそうなくらい苦しい。

少年は数ヶ月後とある理由で彼女と話す機会を得る。
彼女と、出会う機会を得る。

しかしそれはきつと偶然ではない。

僕は今日も変わらず願い続ける。

キミと、話せますように。

面と向かって、君に出会えますように。

何回だって何万回だって願う。

いつか必ず出会える。

僕はそう、信じてる。

「お前なあ」

と、数少ない僕の友は言った。

「そんな奇跡がおきるほど世界は都合よくできちゃいねえんだよ」

「それは……そうだけだよ」

「いい加減前向いて生きようや。俺も付き合ってやっからよ」

「ありがとう……」

「気にすんなって」

彼は笑う。

「だけど、と僕は思う。」

それでも僕は、彼女と出会えるって信じてる。

(後書き)

相変わらず文才ねえ……

あまりにも短くまとめすぎました。(しかも1番のみ)

今どうにかこれを立派な連載に出来ないだろうかと考察中です。

ではでは。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3733p/>

短編 8

2010年12月8日06時35分発行